



2022年3月期 第3四半期 決算説明資料

- 1) 決算概要
- 2) 決算のポイント
- 3) 国内売上高
- 4) 海外売上高
- 5) 商品群別売上高
[参考]内訳/COVID-19関連
- 6) トピックス
- 7) 減価償却費と研究開発費
- 8) 通期業績見通し
- 9) 通期業績見通し 修正のポイント
[参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響



日本光電工業株式会社

銘柄コード: 6849
2022年2月3日

1) 決算概要

	2021/3 第3四半期 累計	2022/3 第3四半期 累計	増減率 (%)	(単位: 百万円、単位未満切捨て)
売上高	137,046	148,078	8.0	
国内売上高	88,004	96,597	9.8	
海外売上高	49,042	51,481	5.0	← 為替影響除く: +1%
売上総利益 (売上総利益率)	69,113 50.4%	79,188 53.5%	14.6	← 自社品 売上比率: 2020/12 69.1% → 2021/12 72.1%
営業利益 (営業利益率)	15,586 11.4%	23,316 15.7%	49.6	← 販管費: 535億円 → 558億円 販管費率: 39.0% → 37.8%
経常利益	14,697	24,677	67.9	← 為替差損益: 差損1,271百万円 → 差益979百万円
親会社株主に帰属する 四半期純利益	8,882	16,911	90.4	
平均レート	(2020/12)	(2021/12)		
1米ドル	106.3円	110.2円		
1ユーロ	122.2円	130.9円		

- 売上高は8%増の1,480億円となりました。
- 国内売上高は、9.8%増の965億円となりました。消耗品・サービス事業の強化に注力するとともに、前年同期に低調だった一部製品の需要が回復、ITシステム商談の再開も売上に寄与したことから、全ての市場で増収となりました。
- 海外売上高は、5%増の514億円、現地通貨ベースでは1%の増加となりました。全ての地域において、前年同期に低調だった一部製品の需要が回復したほか、消耗品・サービス事業の強化が奏功しました。
- 営業利益は、増収効果に加え、商品構成の良化により粗利率が改善したことから、49.6%増の233億円となりました。粗利率は、自社品比率が上昇したことから、53.5%となりました。
- 経常利益は67.9%増の246億円、純利益は90.4%増の169億円となりました。
- 社内計画に対しましては、国内は計画どおりの進捗でしたが、海外が計画を上回って推移しました。営業利益につきましても、粗利率の良化が寄与し、計画を大きく上回りました。このため、通期の見通しを修正しました。

2) 決算のポイント

売上高：前年同期比 8.0%増

- 国内：前年同期に低調だった一部製品の需要が回復、ITシステム商談の再開も売上に寄与。政府予算を背景とした生体情報モニタ、人工呼吸器の整備が継続。
- 海外：全ての地域で前年同期に低調だった一部製品の需要が回復、消耗品・サービス事業の強化が奏功。

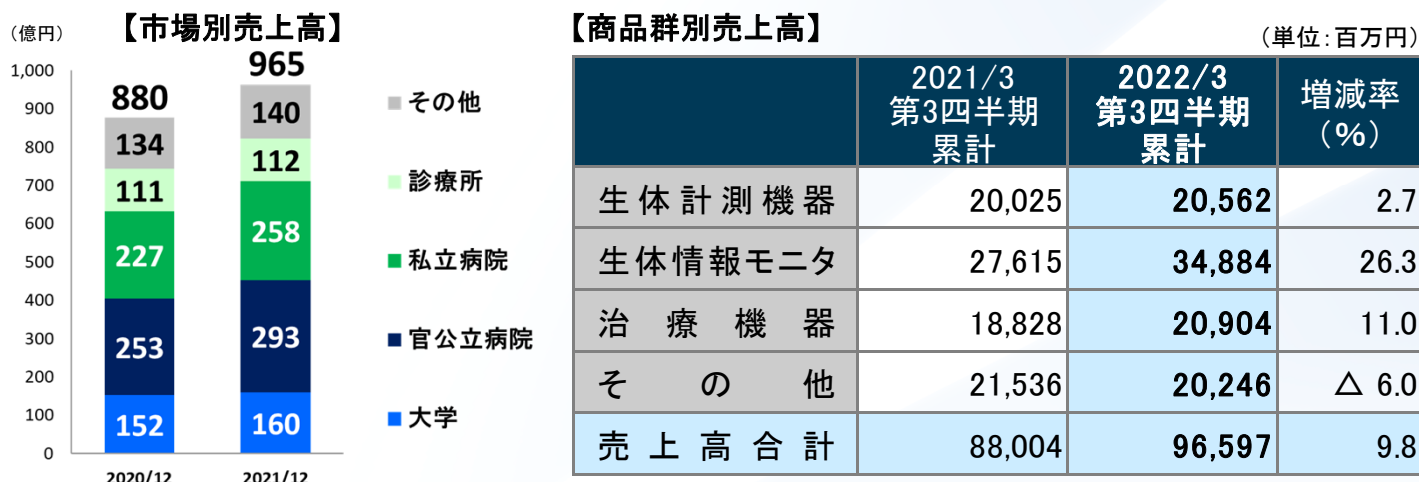
営業利益：前年同期比 49.6%増

- 増収効果に加え、売上構成の良化により粗利率が改善したことから、大幅増益を達成。

経常利益：前年同期比 67.9%増

- 為替差損益が差益に転じる。

3) 国内売上高



【市場別】 前年同期に低調だった一部製品の需要が回復、ITシステム商談の再開も売上に寄与し、全ての市場で増収。官公立病院、私立病院市場は、政府予算を背景とした生体情報モニタ、人工呼吸器の整備もあり、二桁成長。

【商品群別】 **生体計測機器:** 診断情報システム、心電計群が二桁成長。脳神経系群も好調に推移。パルスオキシメータの需要も増加。心臓カテーテル検査装置群は現地仕入品の減収影響を除くと二桁成長。

生体情報モニタ: 送信機、ベッドサイドモニタ、臨床情報システムが大幅増収。センサ類など消耗品も二桁成長。

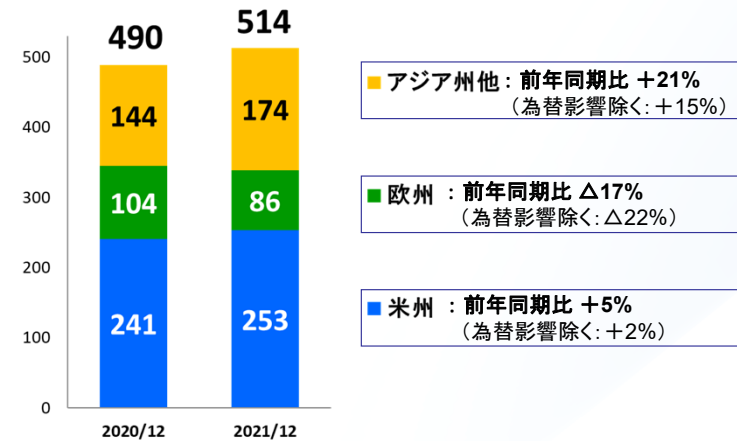
治療機器: 人工呼吸器が大幅増収。除細動器、AEDも好調に推移。

その他: 自社品販売の注力により現地仕入品が減収。検体検査装置、医療機器の設置工事サービスは好調に推移。

- 国内売上高は、85億円増の965億円となりました。前年同期に低調だった生体計測機器や検体検査装置など一部製品の需要が回復したほか、ITシステム商談の再開も売上に寄与したことから、全ての市場で増収となりました。消耗品・サービス事業も好調に推移しました。
- 官公立病院、私立病院市場では、政府予算を背景とした生体情報モニタ、人工呼吸器の整備もあり、二桁成長となりました。
- 自社品販売の注力により、生体計測機器やその他商品群に含まれる現地仕入品が減収となりましたが、これにより、商品構成および粗利率の良化につなげることができました。
- 生体計測機器は、診断情報システム、心電計群が二桁成長、脳神経系群も好調に推移しました。パルスオキシメータの需要も増加しました。心臓カテーテル検査装置群は、現地仕入品の減収影響を除くと二桁成長となりました。
- 生体情報モニタは、前年同期が減収だったことに加え、感染症患者受け入れ対応もあり、送信機、ベッドサイドモニタが大幅増収となりました。臨床情報システムも商談が再開し、大幅増収となりました。センサ類など消耗品は、検査・手術件数の回復に伴い、二桁成長となりました。
- 治療機器では、人工呼吸器が大幅増収となったほか、除細動器、AEDも好調に推移しました。
- その他商品群では、検体検査装置や医療機器の設置工事サービスは好調に推移しましたが、現地仕入品が減収となりました。

4) 海外売上高

【地域別売上高】



【海外売上高比率】

2021/3 第3四半期累計	2022/3 第3四半期累計
35.8%	34.8%

【商品群別売上高】

(単位:百万円)

	2021/3 第3四半期 累計	2022/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	5,948	6,895	15.9
生体情報モニタ	27,753	27,540	△0.8
治療機器	11,700	12,245	4.7
その他	3,639	4,800	31.9
売上高合計	49,042	51,481	5.0

為替影響除く: +1%

【地域別】 米州: 米国が好調に推移。中南米は前年同期に売上が倍増したメキシコ、コロンビアでの反動により減収。一部製品の需要は回復したものの、大幅増収となった前年同期の反動を補うには至らず、減収。
 欧州: 一部製品の需要は回復したものの、大幅増収となった前年同期の反動を補うには至らず、減収。
 アジア州他: インド、タイ、マレーシア、エジプトでの売上が倍増。中国、ベトナムも好調に推移。
 【商品群別】 生体計測機器: 脳神経系群が米国、中国で回復、欧州で好調に推移。心電計群は全ての地域で前年同期を下回る。
 生体情報モニタ: 欧州、中南米が前年同期の需要増加の反動により減収。米国、アジア州他は好調に推移。
 治療機器: 全ての地域でAEDの需要が回復。アジア州他、欧州で除細動器が大幅増収。
 その他: 人工呼吸器は前年同期の需要増加の反動により減収、インド、東南アジアでは需要が増加。全ての地域で血球計数器・試薬の需要が回復。

- 海外売上高は24億円増の514億円、現地通貨ベースでは1%増加しました。海外売上高比率は34.8%となりました。
- 米州では、米国が好調に推移しました。前年同期に需要が急増した人工呼吸器の反動はあったものの、脳神経系群およびAEDの需要が回復するとともに、生体情報モニタが好調でした。中南米は、前年同期に売上が倍増したメキシコ、コロンビアでの反動により減収となりました。
- 欧州は、前年同期に低調だった一部製品の需要は回復したものの、大幅増収となった前年同期の反動を補うには至らず、減収となりました。感染再拡大の一部地域では、生体情報モニタ等の需要が見られます。
- アジア州他では、感染再拡大により、インド、タイ、マレーシアでの売上が倍増、ベトナムも好調に推移しました。エジプトも商談の再開により売上が倍増しました。中国は、現地通貨ベース、円ベースともに二桁成長となりました。中国は12月決算であり、通期では、現地通貨ベースで一桁半ば、円ベースで二桁の増収の見通しです。
- 商品別では、コロナの影響で前年同期に低調だったAED、脳波計、血球計数器・試薬の需要が全ての地域で回復しました。生体情報モニタは、欧州、中南米が前年同期の需要増加の反動により減収となりましたが、米国、アジア州他は好調に推移しました。人工呼吸器も前年同期の需要増加の反動により減収となりましたが、インド、東南アジアでは需要が増加しました。

5) 商品群別売上高

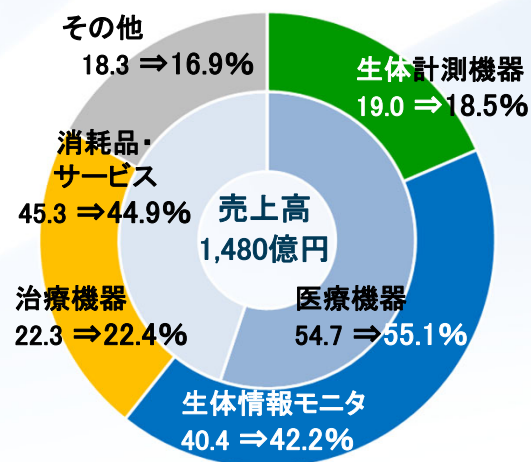
(単位:百万円)

	2021/3 第3四半期 累計	2022/3 第3四半期 累計	増減率 (%)
生体計測機器	25,973	27,457	5.7
生体情報モニタ	55,369	62,425	12.7
治療機器	30,528	33,149	8.6
その他	25,175	25,046	△ 0.5
売上高合計	137,046	148,078	8.0

(ご参考)

消耗品・サービス	62,036	66,431	7.1
----------	--------	--------	-----

商品群別売上構成比
(2020/12 ⇒ 2021/12)



- 生体計測機器は前期比5.7%増の274億円、生体情報モニタは12.7%増の624億円、治療機器は8.6%増の331億円、その他商品群は0.5%減の250億円となりました。
- 医療機器の需要拡大により、消耗品・サービスの売上構成比率は44.9%となりました。

[参考] 商品群別売上高の内訳

(単位: 億円、単位未満切捨て)

生体計測機器	2021/3 第3四半期 累計	2022/3 第3四半期 累計
脳神経系群	43	51
心電計群	46	48
心臓カテーテル検査装置群	107	99
その他(診断情報システム等)※	62	74

※診断情報システムや他社製の生体計測機器を含みます。

治療機器	2021/3 第3四半期 累計	2022/3 第3四半期 累計
医科向け除細動器	52	63
A E D	106	128
ペースメーカー・ICD	20	19
人工呼吸器	80	69
その他の	45	50

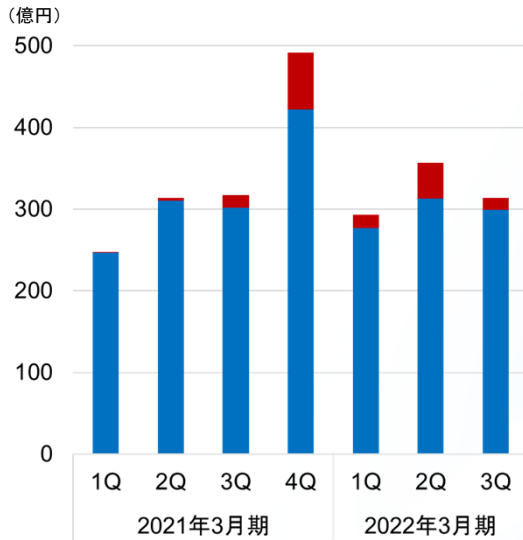
その他	2021/3 第3四半期 累計	2022/3 第3四半期 累計
検体検査装置	66	78
画像診断装置、研究用機器他※	185	172

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

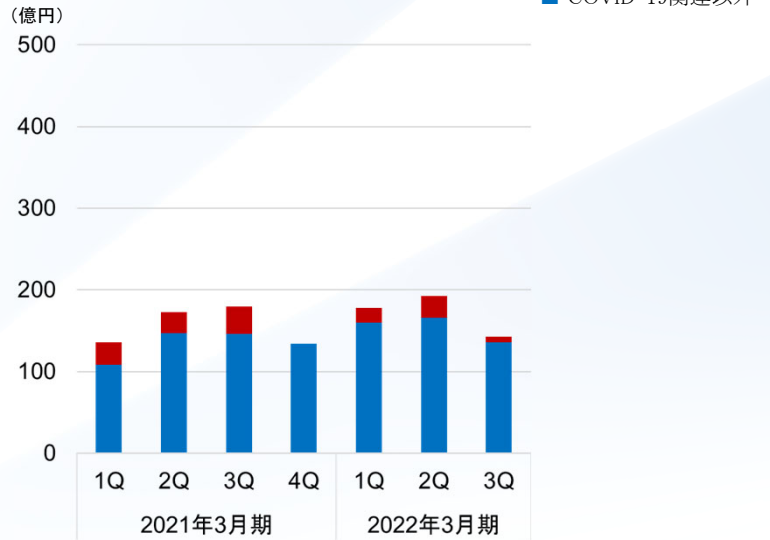
- 商品群別売上高の内訳は、ご覧のとおりです。

[参考] COVID-19関連需要(概算)

【国内売上高】



【海外売上高】



【2022年3月期 第3四半期 COVID-19関連需要】

国内：生体情報モニタ 12億円程度、人工呼吸器3億円程度 海外：生体情報モニタ 5億円強、人工呼吸器 1億円強

- 第3四半期会計期間におけるコロナ関連の需要は、国内で、生体情報モニタが12億円程度、人工呼吸器が3億円程度、海外で、生体情報モニタが5億円強、人工呼吸器が1億円強あったと見ています。
- 第3四半期会計期間において、国内は1%の減収でしたが、他社品の減収が要因であり、注力する自社品の販売は好調を維持しています。海外は21%の減収でしたが、前年同期にあったコロナ関連特需が一巡したことによるものです。

6) トピックス

2022年3月期下期発売の主な新製品

生体情報モニタリング事業

セントラルモニタ CNS-2101

3Q: 日本



- ICU等で、最大32名まで集中モニタリング
- アイコン化したメニューウィンドウで、患者情報へのアクセスを効率化
- 病院情報システム等との連携により、業務効率の向上をサポート



壁掛け設置
可能

中位機種ベッドサイドモニタ CSM-1500/1700シリーズ

4Q予定: 米国



治療機器事業

自動体外式除細動器 AED-3250

4Q: 日本



- 当社初のオートショックAED
- 救助者がショックボタンを押す必要がなく、救助への心理的な負担の軽減、電気ショックまでの時間短縮を目指す



AEDリモート監視
システムで
日常点検をサポート

4x0

00:01

4x0

00:37



このAEDは自動で
電気ショックをおこないます。



体から離れて
ください。

3秒後 自動で電気ショック。
体から離れる。

カラー画面にイラストとメッセージで操作方法を表示

- 第3四半期には、セントラルモニタの新製品 CNS-2101を国内で発売しました。ICUや手術室等で、最大32名までの患者さんのバイタルサインをベッドサイドモニタや送信機等から受信し、集中的にモニタリングします。様々なメニューウィンドウをアイコン化し、医療従事者が必要としている患者情報へのアクセスを効率化しました。病院情報システム等とも連携でき、医療従事者の業務効率の向上をサポートします。
- 中位機種ベッドサイドモニタの米国発売は、第4四半期を予定しています。
- 治療機器事業では、第4四半期に、当社初となるオートショックAEDを国内で発売しました。救助者がショックボタンを押す必要がなくなるため、救助への心理的な負担の軽減につながることを期待しています。また、電気ショックまでの時間短縮により、救命率のさらなる向上を目指しています。

7) 減価償却費と研究開発費

(単位:百万円)

	2021/3 第3四半期 累計	2022/3 第3四半期 累計	増減額	2021/3 前期実績	2022/3 予想		
					期初	11月8日 修正	2月2日 修正
減価償却費	2,334	2,467	132	3,236	3,800	3,800	3,800
研究開発費	4,430	4,040	△ 390	6,357	6,600	6,300	6,100
		設備投資額		3,524	4,100	4,100	4,100

【2022/3期 設備投資計画】

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、IT投資、工場生産設備

- 減価償却費は前期比1億円増の24億円、研究開発費は4億円減の40億円となりました。
- 通期の減価償却費は38億円、設備投資は41億円に変更ありません。研究開発費につきましては、第3四半期までの進捗を踏まえ、通期の見通しを61億円に見直しました。開発部門において、部品供給のひっ迫に対応するため、代替品の調査や性能検証に工数を割かれており、一部の開発で進捗が遅れが生じています。

8) 通期業績見通し

	2021/3 前期実績	2022/3予想		増減率 (%)	
		期初	11月8日修正		2月2日修正
売上高	199,727	185,500	201,000	203,000	1.6
国内売上高	137,274	128,000	136,500	136,500	△ 0.6
海外売上高	62,452	57,500	64,500	66,500	6.5
売上総利益 (売上総利益率)	102,233 51.2%	92,100 49.6%	104,000 51.7%	106,500 52.5%	4.2
営業利益 (営業利益率)	27,094 13.6%	16,000 8.6%	25,500 12.7%	28,500 14.0%	5.2
経常利益	28,374	16,000	25,500	29,500	4.0
親会社株主に帰属する 当期純利益	18,243	11,000	17,500	20,000	9.6
海外売上高比率	31.3%	31.0%	32.1%	32.8%	
平均レート					
1 米 ド ル	105.9円	105円	110円	111円	
1 ユ ー ロ	123.1円	125円	130円	131円	

← 為替影響除く: +1%

【地域別海外売上高】

	2021/3 前期実績	2022/3予想		増減率 (%)	
		期初	11月8日修正		2月2日修正
米 州	30,288	29,000	31,500	32,200	6.3
欧 州	13,139	9,500	10,000	10,600	△ 19.3
アジア州他	19,024	19,000	23,000	23,700	24.6
海 外 計	62,452	57,500	64,500	66,500	6.5

※第4四半期の前提為替レートは114円/米ドル、131円/ユーロです。

- 第3四半期の実績および最近の業績動向を踏まえ、通期の業績見通しを上方修正しました。
- 国内売上高は、前回予想どおり、0.6%減の1,365億円を見込んでいます。第4四半期は、生体情報モニタ、人工呼吸器の需要が急増した前年同期から反動の見込みです。自社品販売の注力により現地仕入品も減収の見込みです。
- 海外売上高は、前回予想から20億円増の665億円、現地通貨ベースで前期比1%増を見込んでいます。欧州やアジア州他など、感染再拡大の一部地域で生体情報モニタ等の需要があるほか、コロナ関連以外の医療機器の需要が回復傾向にあることから、通期見通しを修正しました。
- 営業利益については、売上高が前回予想を上回るとともに、売上構成の良化により粗利率も前回予想を上回る見込みであることから、285億円を見込んでいます。経常利益、純利益につきましては、ご覧のとおりです。通期の見通しには、現時点での変異株の感染拡大および半導体の需給ひっ迫等の影響を織り込んでいますが、今後の動向については引き続き注視が必要と考えています。

9) 通期業績見通し 修正のポイント

通期売上高 (前回予想から 20億円増)	国内売上高 (前回予想と変わらず)	<ul style="list-style-type: none"> 4Qは、生体情報モニタ、人工呼吸器の需要が急増した前年同期から反動の見込み 自社品販売の注力により現地仕入品も減収の見込み
	海外売上高 (同20億円増)	<ul style="list-style-type: none"> 感染再拡大の一部地域で生体情報モニタ等の需要あり COVID-19関連以外の医療機器の需要が回復傾向 通期の為替レート的前提を円安方向に見直し (1米ドル:110円⇒111円、1ユーロ:130円⇒131円)
営業利益 (同30億円増) 経常利益 (同40億円増) 親会社株主に帰属する 当期純利益 (同25億円増)	<ul style="list-style-type: none"> 売上高が前回予想を上回る見込みのため、上方修正 売上構成の良化により、粗利率も前回予想を上回る見込み 	

※ COVID-19変異株の感染拡大および半導体の需給ひっ迫等の影響を織り込んでいますが、今後の動向により、実際の業績は予想数値と異なる可能性があります。

[参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響

(単位:百万円)

	2021/3 前期実績	2022/3予想				増減率(%)
		期初	11月8日修正	2月2日修正	構成比(%)	
生体計測機器	37,586	40,700	40,600	39,700	19.6	5.6
生体情報モニタ	78,818	70,900	80,750	81,900	40.3	3.9
治療機器	45,126	36,100	41,450	43,200	21.3	△ 4.3
その他	38,196	37,800	38,200	38,200	18.8	0.0
売上高合計	199,727	185,500	201,000	203,000	100.0	1.6

(ご参考)

消耗品・サービス	85,890	87,200	91,400	92,100	45.4	7.2
----------	--------	--------	--------	--------	------	-----

為替感応度の概算値(年間)

	売上高	営業利益
米ドル	3.7億円	1.4億円
ユーロ	0.7億円	0.3億円

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

12

- 通期の商品群別の売上高予想については、ご覧のとおりです。
生体情報モニタと治療機器は、感染再拡大の一部地域におけるコロナ関連需要およびコロナ関連以外の医療機器の需要が回復傾向にあることを踏まえ、修正しました。
生体計測機器は、オミクロン株の感染再拡大に伴い検査件数の回復遅れの懸念があるため、見直しました。

利益配分の基本方針

利益配分の優先順位は、①将来の企業成長に向けた投資、②配当、③自己株式取得

将来の企業成長
に向けた投資

- ・ デジタルヘルスソリューションを新規事業と位置付けて積極投資
- ・ コーポレートDX推進、グローバルSCM構築のための設備投資

研究
開発



設備
投資



M&A
提携



人財
育成



配当

長期安定配当を
継続

目標:連結配当性向
30%以上

自己株式取得

今後の事業展開、投資計画、内部留保の水準、株価の推移等を総合的に考慮し、機動的に検討

22/3期
(予想) 年間配当金:
(普通配当 52円
39円)
(70周年記念配当 13円)
(配当性向:22.0%)



自己株式の
取得状況

2022/2/3(予定)
289,800株を取得

自己株式保有見込み:430万株
(持株比率:4.9%)

- 2021年8月7日をもちまして創立70周年を迎えたことから、株主の皆様のご支援に感謝の意を表しまして、普通配当に加え、1株当たり13円の記念配当を実施いたします。これにより、当期の年間配当金は、52円となります。
- また、自己株式28万株を取得したことから、総還元性向は26.4%の予想です。
- 株主還元につきましては、通期の決算が確定した段階で検討する予定です。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おきください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部
【連絡先】TEL03-5996-8003